

テーマ

「農地の利用状況調査の円滑な実施」

美郷町農業委員会

活動内容

本委員会ではこれまで転作確認と併せて利用状況調査を実施することにより、作付け状況や特に耕作放棄地について、より正確な情報をJA職員・地元協力委員から得られると考え実施してきた。しかし、担当地区農業委員の耕作放棄地区分の判断が統一されていなかった。

今年度は、人・農地プラン作成にあたり農地として利用すべき農地を判断するため、町内を4地域に分け、農業委員(平均3名)と事務局で各地域(平均3日間)の調査を行い、区分の判断を統一した。特に赤(判断未了)の農地について確定させ、農地と判断した農地所有者に対しては耕作の再開等に向け農業委員より指導を行った。



取り組み成果

粘り強い指導の結果、約5haが農地へ再生された。また人・農地プラン作成にあたり「守り活かす農地」が明確となり、各地区の検討会に役立つと思う。

再生利用が困難な農地については今後意向調査を行う予定。

会長コメント

7月～8月の猛暑の中の調査で各委員も大変であった。しかし各委員でまちまちであった判断が統一され、指導を行う農地が明確になったことで、徐々にではあっても遊休農地が解消できればと思う。

テーマ

「遊休農地の解消」

美郷町農業委員会

活動内容

地元委員から連合自治会長へ町外在住者で遊休化していた農地の解消として、薬草でもあるシャクヤクを植えてみないかと持ちかけた。町が進める「薬草・薬樹の郷」の取組により苗を無償配布してもらい、連合自治会として取り組んでもらった。

現状



将来



取り組み成果

国道沿いの遊休農地約9aが再生対象。株分けにより面積拡大が予定されており、地域の景観形成にも役立つと思う。連合自治会での取組であり地域の維持・活性化につながると考える。

会長コメント

町内最初の取組で、うわさを聞いた他の自治会も苗配布を希望していると聞いている。こうした取り組みが町全体に広がり遊休農地解消に役立つことを望んでいる。薬草でもあるので新たな産業としてつながればと期待している。